

令和 3 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	87	学校名	総和工業高等学校					課程	全日制		学校長名		勝田 滋				
教頭名	大竹 利巳										事務（室）長名		橋本 雄一				
教職員数	教諭	36	養護教諭	1	常勤講師	2	非常勤講師	1	実習教諭，実習講師， 実習助手		8	事務職員	3	技術職員等	3	計	54
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合 計 クラス数				
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	機 械 科		49	0	57	0	68	5			174	5	6				
	電子機械科		37	3	40	0	30	2			107	5	3				
	電 気 科		24	0	39	1	27	2			90	3	3				

2 目指す学校像

1	校訓である「智和憤」と「ものづくりは人づくり」を教育活動の基盤とし、心身ともに健康で豊かな人間性を育てるとともに、確かな技術力と企業が求める「社会人基礎力」を身につけた優秀な工業技術者を育成する学校。
2	「圏央道新産業クラスターゾーン」を代表する工業高校として、地域の発展に貢献できる人財を育成する学校。
3	全教職員が資質向上に努め、魅力ある教育活動を推進し、生徒・保護者・地域社会から確かな信頼を寄せられる学校。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項 目	現 状 分 析	課 題
学習指導	基礎学力の不足や学習意欲に欠ける生徒もいるが、大学進学を目指し、積極的に学習に取り組む生徒もみられる。授業では、ICT教育も取り入れ、指導の改善を図り、これからの学習指導体制を模索している。 また、資格試験に積極的に取り組んでいる生徒も多い。	授業改善を積極的に行い、教育の環境や施設を整備し教員の授業力向上を図る。また、生徒に学び直しの機会を与え、基礎学力の定着を図る。更に、資格試験に対する指導体制も充実させる。
生徒指導	挨拶のできる明るい生徒が多いが、規範意識が低く公共物を大切にしない生徒もみられる。 交通事故件数は減少傾向にあるが、交通マナーに関しては、大きな改善が見られない。安全教育と共に交通マナーの改善を更に進めていく必要がある。	教育相談体制を充実させ、生徒一人一人にきめ細やかに接し、自己肯定感や自己有用感を高めさせることで、問題行動の未然防止・早期発見等に努める。また、自転車・原付バイク通学者の交通安全教育の充実を図る。
進路指導	10 年来、就職希望者の内定率は 100% を維持している。一方進学に関しては大学進学者が 13%、専門学校進学者が 9 % である。最近では進学先や学部の開拓が増加している。引き続きキャリア教育の充実を図ると共に、進学・就職の両面に対応した面接・小論文等の指導を実施していく必要がある。	生徒の進路意識を向上させるため、1 年次から計画的なキャリア教育を実施する。2・3 年生に対してインターンシップや企業実習を充実させ、職業観を育成する。 また、大学進学者への指導体制を整える。
特別活動	ホームルーム活動や学校行事には積極的に参加する生徒が多い。特色選抜を導入して部活動が活性化しつつあるが、部活動加入率は約 40% と低い。 また、生徒会を中心として、募金などのボランティア活動を行っている。	1 年次の早い段階に部活動加入を勧め加入率を上げ、生徒間の望ましい人間関係を築くことで退部者を減らす。 また、人間形成の一助となるよう、ボランティアの参加や奉仕作業の機会を促進する。生徒が特別活動全般に渡り総工版キャリア・パスポートを用い自己評価を行い、記述を基に対話的に関わり、生徒の成長を促す。
働き方改革	授業改善の教材研究（ICT の活用も含む）、校務分掌業務、放課後や週休日等の資格取得指導、部活動指導と校務繁多な日々が展開されている。また、突発的な生徒指導上の問題発生と多様化する生徒の指導に困惑している。	教職員の連携を密にし、業務の分散化や優先順位等を考慮し、仕事の効率化を図る。

別紙様式1（高）

4 中期の目標

- 1 生徒一人一人を大切に育てる教育を実践し、確かな知識と技術をもつ生徒を育てる。
- 2 授業改善を推進し「魅力ある授業」、「わかる授業」を展開する。基礎・基本を重視して「確かな学力」、「生きて働く知識・技能」を確実に習得させる。「工業技術者として必要な思考力・判断力・表現力」を身につけた生徒を育てる。
- 3 工業の基礎的・実践的技術を習得させ、各種の資格取得やものづくりに真摯に取り組む生徒を育てる。
- 4 基本的生活習慣の確立を図り、礼儀正しい挨拶や身だしなみ、高い規範意識、企業が求める「社会人基礎力」を身につけた生徒を育てる。
- 5 生徒個々の進路希望を確実に実現するために、系統的・組織的なキャリア教育を推進する。企業や大学との連携を図り、望ましい勤労観・職業観を養うとともに、進路意識の高揚を目指し、社会の変化やグローバル社会に対応できる力をもつ生徒を育てる。
- 6 学校行事、特別活動や部活動、ボランティア活動等の活発化を推奨し、達成感をもたせ生徒の自己肯定感を高める。
- 7 安全で安心して学べる学習環境を確保し、生徒が生き生きとした学校生活や社会生活が送れるように安全教育や健康づくりを推進する。
- 8 地域との交流、出前授業などを通じて、地域に貢献する開かれた学校づくりを全体で取り組む。また、その取り組みを積極的に発信し生徒の自己有用感を高める。
- 9 業務の見直しや優先順位を考慮し、効率化を目標に働き方改革を推進する。

5 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標
学習意欲を高める授業・実習の指導改善	①授業規律の確立と基礎的・基本的な内容を重視し、確かな学力の定着を図る。 ②観点別評価を活かした学習活動に努め、授業・実習の工夫改善を図る。 ③ものづくり教育を推進させ、専門的な知識や技術の習得と、資格取得につなげる。
道徳教育の推進と基本的生活習慣の確立	④規範意識の高揚を図り、基本的生活習慣を身につけさせる。 ⑤道徳教育やいじめ防止対策推進体制を確立し問題行動等の未然防止に努める。 ⑥ルールやマナーの向上を図り交通事故防止に努める。
健康や体力を育み学校全体の活性化	⑦部活動やホームルーム活動等を充実させ、生徒の主体性を育む。 ⑧学校行事等を通して、生徒の自主性・自律心を育成し、学校全体の活性化を図る。 ⑨特別活動の充実を図り、体験的活動を通して自発的・自治的な態度の育成に努める。
社会の変化に対応した生きる力の育成	⑩キャリア教育を推進し、勤労観・職業観の育成を図り、進路希望の実現を目指す。 ⑪企業体験学習や進学支援を充実させ、主体的に進路選択ができるようにする。 ⑫校内環境の美化に努め、よりよい生活環境の創造のための実践的な態度を育成する。
P T A活動の活性化と地域社会との連携	⑬P T A活動の活性化のため、保護者との連携と行事の工夫改善を推進する。 ⑭地域イベントやボランティア等に積極的に参加し、本校の特色をアピールする。 ⑮ものづくりを活かし地域社会との連携を推進する。
働き方改革の推進	⑯業務の見直しを行い、その効率化を図る。